

一日前プロジェクト



私たち(被災者)からみなさんに伝えたいこと

おばあちゃんが残してくれた“備え”を ご近所にもおすそ分け

東日本大震災(平成23年3月)

仙台市青葉区 30代 女性 会社員



信号も止まり、街中がまさにパニックに近い感じになっているなか、やっとの思いで自宅に帰ってきたものの、家の中はキッチンもリビングも物が散乱状態。

母とふたり、不安になりながら最低限の片づけをしている時に、亡くなったおばあちゃんが残してくれた“防災袋”が出てきたんです。中には簡易カイロもたくさん入っていたので、早速ご近所に配りました。

あの日は夕方から雪が降ったので、わずかな暖であっても、とても喜ばれました。もちろん私も母も“おばあちゃんありがとう”と何度も何度も感謝しました。

震災後は、親戚や親しい知人などの連絡先となる電話番号などを、小さな紙にメモしてサイフの中に入れ、常に持ち歩くようになりました。

当然ですが、携帯電話に連絡先が入っていても電池が切れていると何の情報も得られないわけですから。

平日頃から“備えておくこと”の大事さをわかっていた

つもりでしたが、具体的な行動となるとなかなかできないもの。

おばあちゃんの気遣いに助けてもらってからは、悔いを残さないためにも“思ったらすぐやる”ことを実行しています。



緊急時の家族との決め事が大事!

東日本大震災(平成23年3月)

仙台市宮城野区 40代 女性 主婦



自宅にいたときに地震が発生しました。

初めはいつものように、すぐにおさまるのだろうと思っていましたが、今までに体感したことのない揺れに家の中にいるべきか、外に出るべきかただただ自分の身を守ることでも精一杯でした。台所の食器棚からは、ほとんどの食器が崩れ落ち、揺れの大きさに驚きました。

家族の安否が気になりましたが、ライフラインは途絶え携帯電話のメールでしか安否が確認できませんでしたが、小学生の子供は、メールにて学校から連絡があったので迎えに行き、無事に帰宅できたものの、祖母などメールの利用ができない親族と連絡が取れず不安でした。

いつまた、あのような災害があるかわかりません……。

家族で安否の取り方を再度話し合い、避難ルートの確認・最低限度の食料の備蓄を心掛けて生活したいと思います。

震災の一日前に戻ったら、明日おこる悲惨な出来事を多くの人に知らせ、少しでも被害が少なく済むようにできたらと思います。





備えのない一人暮らしを反省

仕事中に地震が発生。事務所内はありとあらゆるものが倒れてきましたが、けが人もなく、全員無事でした。

その後、外に出ていた社員の安全と田舎の両親に無事なことを報告、幸いにもタイミングが良かったのか、メールで連絡をとることができて一安心。

その後は一人暮らしの寮に戻りましたが、メチャメチャな状態・・・。

一人暮らしの寮住まいのため、普段は自炊を全くせず、毎日の食事は外食とコンビニで冷蔵庫の中はカラ状態が当たり前でした。

田舎の両親に物資の発送をお願いしようとしたのですが、震災発生直後は、宅配便も動かなかったため支援物資も届かず、スーパーもコンビニもダメ・・・。大変な思いをしました。

今回の震災で食料の大切さを感じました。

もし一日前に戻れるなら、缶詰等の食料を買っていたと思います。



防災豆知識 その1 日頃から準備しておきたいもの・家族の安否確認

家庭やオフィスに常備しておきたいもの(例)

●速やかな避難のため



防災のために特別なものを用意するのではなく、できるだけ、普段の生活の中に組み込んで、平時に無意識に更新されるものでまかないましょう。

●なければ困るもの



●安否確認の主な方法には、次のようなものがあります。体験利用などの機会をとらえて、**実際の使い方**を覚えておきましょう。

171

災害用伝言ダイヤル

(携帯)

災害用伝言板サービス

web171

災害用ブロードバンド伝言板

●「171災害用伝言ダイヤル」の利用方法(例:被災地から録音し、被災地外で聞く場合)

被災地

- ①171をダイヤル
- ②「1」(録音)を選ぶ
- ③自分(被災地)の電話番号をダイヤル
- ④メッセージの録音



被災地外

- ①171をダイヤル
- ②「2」(再生)を選ぶ
- ③被災地の方の電話番号をダイヤル
- ④メッセージの再生



安否確認の方法



情報があると安心

スクリーンでニュース映像を流す

今回、帰宅困難者の方々がもっとも必要としていたもの、それは情報です。地震直後から携帯電話の回線がパンクしてしまったため、家族の安否確認が取れない人も多かったはず。そこで、避難されている方々に向けて、大きなスクリーンでテレビのニュース映像を流すことにしました。画面には津波などの甚大な被害が流れていましたが、同時に都内での被害が少なかったことなど、安心できる情報も得られたので、皆さんパニックにならず冷静に過ごされていました。

今回の震災では、Twitter^{*1}やSkype^{*2}で安否の連絡を取った方々の話をよく聞きましたが、インターネットの重要性が確認されたように思います。

インターネットでは知りたい情報をピンポイントで調べられるし、情報が早いこともあり、それも提供するようにしました。

深夜0時30分頃に電車の運転が再開すると、避難されている方々のなかには帰路につく人も多かったのですが、状況が分かったために安心して朝まで泊まっていく人もかなりの人数がいたのです。情報があるとないとでは、安心感が違うことを痛感しました。

^{*1} Twitterとは、web上に公開されている、140文字以内の短い投稿(ツイート)を入力して、みんなで情報を共有する無料のサービス。

^{*2} Skypeとは、インターネットを利用した世界中どこへでもかけられる無料の電話サービスのこと。



イベントの最中に地震が発生

自宅への道順が分からない方をサポート

震災の当日は、商店街入り口の広場で開催されるイベントの初日でした。

地震が起きた時間は、人出のピークは過ぎていましたが、普段の平日より人通りが多くて、軽く1,000人以上はいたと思います。

大きな揺れがなかなかおさまらず、お客さんに店内に止まってもらうか、それとも屋外に避難してもらうか迷いましたが、店内は危ないと判断して、お寺の境内にある広場に避難してもらうようにしました。

皆さん無事で安心しましたが、本当に大変だったのはその後です。電車が止まってしまい、駅にどんどん人が集まっていくのが見えました。それから地下鉄が動き始める夜11時過ぎまで、歩いて自宅まで帰る人々が国道に溢れ返ったのです。

商店街のメンバーで帰宅困難者のサポートをしましたが、意外だったのは、自宅まで帰る道順を知らない人が多かったことです。普段、電車で移動するから分からないのでしょうか。大勢の人から道を尋ねられました。





乳幼児に必要なもの

ミルクを作るのに必要なお湯、そしてベッド

最初は老若男女分け隔てなく、同じ教室に誘導していたのですが、なかには赤ちゃんや小さなお子さんを抱えたお母さんの姿も見かけました。そこで、乳幼児と母親のために、別の教室を開放することにしたのです。母子合わせて40～50人ほどの人たちを、5部屋に分けて休んでもらうことにしました。

大人用に水と食料は配付していたのですが、乳幼児に必要なものは予測していなかったものもありました。まずはお湯。ミルクを作るために必要でした。

また、図書館にあった簡易用のベッドを教室に持参しましたが、高さがあって乳幼児は転落する危険性があることから、体育で使用するマットを改めて運び入れることにしました。これでやっとお子さんを寝付かせることができるだろうと、お母さん達も少し安心した様子でした。

この日はかなり寒かったのですが、小中学校とは違い、大学には毛布の準備はあまりありません。今回は暖房をつけて対応しましたが、もし、電気が通っていなかったら、果たして受け入れることが可能だったかと、考えてしまいます。



備蓄した水と食料、そしておにぎりを配布



全員が協力し合ってトラブルなし

これまで大学では計画的に、飲料水と乾パン・ドライフードなどの食料をある程度備蓄してきました。ただ、帰宅困難者のことまでは想定していません。食料が足りるか心配しましたが、この日はたまたま食堂業者の人が学校に来ていたので助かりました。お米があるからおにぎりは作れる、と協力してくれたのです。

夕方5時頃から帰宅困難者の受け入れを開始すると、続々と校内に人が集まってきました。これからどれだけ人が増えるか分かりません。ひとまず学生を含めた全員に、水を1本とドライフードかおにぎりを配布することにしました。

今回、4500人もの人を受け入れましたが、驚いたことに、こんな非常時にも関わらず皆さん、順序良く列に並んでくれて、割り込む人や数をごまかす人はいませんでした。ここに来る途中で食事や飲み物を調達してきた人もたくさん

いましたが、その人たちは「私たちは持っていますから」と水や食料を他の人のために譲ってくれたのです。

皆さんのご協力もあって、用意した水と食料は全員に行き渡りました。



空港ターミナル内が もっとも安全な場所

東日本大震災(平成23年3月)

東京都大田区 20代 男性 空港ビル 勤務



地震発生時、空港内の店舗にはたくさんのお客様がいらっしゃいました。店内には、商品を陳列している棚、他にも電気スタンドなどがありましたから、安全のため、お客様には店の外に出てロビーに集まっていただくように誘導しました。

倒れてくる危険性のある高いものから離れ、看板などの落下物の心配のない場所に座って揺れが収まるのを待つように、お客様に声をかけました。

揺れている最中は皆様、意外と冷静な様子でしたが、揺れがおさまってから、混乱が始まりました。すでにゲートの中に入ってしまった方はできませんが、ロビーにいたお客様の中に、建物の外へ逃げようとする方がたくさんいたのです。

空港ターミナルは、ロビー内にガラスが落ちない仕組みになっているなど、建築構造上建物の中が最も安全な場所として設計されています。とにかくお客様には、安全な室内に戻っていただければなりません。館内放送でターミナル内が安全であることをアピールし、外に出ようとするお客様に

職員が声を掛けて誘導すると、皆様、素直に従っていただきました。



安否確認ができなくて心配

東日本大震災(平成23年3月)

東京都大田区 30代 女性 空港ビル勤務



できる限りの情報提供で一安心

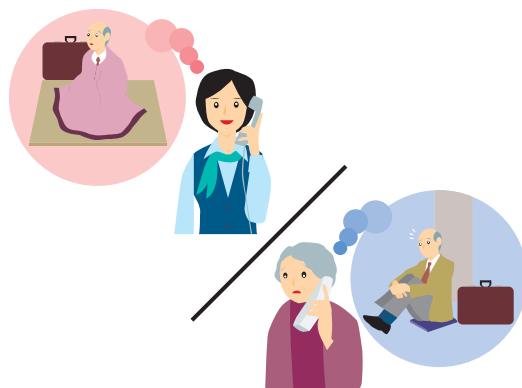
外部から空港にかかってくる電話の対応も、私たち受付の業務です。地震の後は、空港内でも携帯電話が通じない状態が続き、公衆電話にも長蛇の列ができていました。

そういったなか、固定電話ならつながるということで、空港から出られなくなったお客様の安否を憂慮する、ご家族やご友人からの電話が一晩中、ひっきりなしにかかってきました。皆様、せめて空港内の状況を知りたいと思って、問い合わせしてきていたのです。とても寒い日でしたので、それを心配する方が多かったように思います。施設内のお客様全員に毛布をお配りしていることを伝えますと、少しはホッとされている様子でした。

なかには体が悪いご主人のことが気がかりで、電話してこられた奥様もいらっしゃいました。地べたに座っていないか、寒い思いをしていないか、と案じていました。「毛布と一緒に

段ボールも配っていますから、大丈夫だと思いますよ」とお答えすると、ホッと一安心されたようです。

私には目に見える範囲での情報をお伝えるしかできませんでしたが、それによって少しでもご家族、ご友人の方々の気持ちが落ち着かれたのであれば嬉しいです。



急遽始めた携帯電話の 充電サービスが大好評

東日本大震災(平成23年3月)

東京都目黒区 20代 男性 アルバイト



東日本大震災が発生した3月11日、私は通信関係のイベントを運営する仕事で、新宿駅前のイベント会場にいました。その瞬間は、何が起きているのかよくわからず、揺れも「自分が疲れているから?」と錯覚したほどでした。

お客さんの安全確認をして、イベントは中止に。落下物が心配だったので建物から離れ、目の前にある巨大モニターで情報をチェックしていました。

鉄道も止まり、帰ることができないスタッフが何人もいたので、思いついたのが、「近所の大型ディスカウントショップで自転車を買って、帰ってもらおう」ということ。さっそくお店に走りましたが、タッチの差で売り切れ。

そこで目に付いたのが携帯電話の情報を頼りに、家路に急ぐ人たちの姿。

そもそも通信系のイベントだったこともあり、代理店の人、制作の人たちと話し合い、「このスペースを携帯電話の充電ができるコーナーにしよう」と話がまとまりました。

今回は、近所の家電量販店廻りです。こうして20台ほどの充電器を購入。夜7時頃から11時頃まで、充電サービスを行いました。人が絶えることはなく、20台の充電器はフル稼働。多くの人たちから「ありがとう」「助かるわ」と感謝の言葉をいただきました。



本社の避難場所を知らず、皆に迷惑を

東日本大震災(平成23年3月)

川口市 40代 男性 会社員



地震に遭ったのは、会社の健康診断で東京の御徒町にある診療所に行った帰り、時間に余裕があったので、本社のある神田まで歩いている途中でした。信号機が凄く揺れ、近くの高層ビルも、窓がガタガタ音を立てていました。通行中のおばさんが、腰が抜けたように座り込んで、周りの人たちに介抱されていました。

揺れが収まったので再び本社に向けて歩き始めましたが、持っていた携帯ラジオで続々と情報が入り、鉄道が止まっていることがわかりました。神田駅近くの交差点の中央からは、水道水が噴水のように溢れています。また壁やガラスが落下したビルもあり、迂回を命じられることも。

午後4時になんとか本社に到着しましたが、会社のドアがロックされています。「きっと避難場所に避難しているんだろう」と思いましたが、私は避難場所がわかりません。川口の勤務先に確認しようとしたが、公衆電話には長い行列が。なんとか避難場所がわかり、1人遅れて到着したのは、午後

4時30分過ぎ。社員全員の安全が確認されないと、帰宅命令が出ない会社もあるようです。それでは他の人の迷惑にもなりますもんね。

本社や他の支社の避難場所、皆さんは知っていますか?



体力に自信がなければ、無理な帰宅は慎むべき

東日本大震災(平成23年3月)

茅ヶ崎市 50代 男性 団体職員



地震から7時間が経過しても、まだ帰る手段が見つからず、私は東京都庁にいました。するとラジオで「地下鉄、私鉄が一部動き出した」とのニュースが。「どこまでなら帰れるか」いろいろ考えましたが、出た結論は、「行き当たりばったりでも、帰れるところまで帰ろう」というものでした。

最寄駅は大行列で改札制限中。いつ乗れるかわからない状況です。「すぐに乗れる路線はないか」と探して、なんとか電車に乗ることができました。そこから乗り継いで、藤沢駅に到着したのが翌朝の4時30分頃。

体力の限界を感じ、駅に掲示してあった一時避難場所の市民会館で毛布をもらい、しばし仮眠をとりました。コーヒー、パンをもらって一息ついて、朝7時過ぎに再び藤沢駅へ。電車は動いていましたが、すでに大混雑。バスも走り出しましたが長蛇の列で、並ぶ気力、乗り継いで帰る体力もありません。それでも8時15分にやっと電車が来て、20分位かかって自宅近くの駅に。

「なるべく早く一時避難場所に移動し、そこにとどまるべし。無理して帰宅するのは、無駄に体力を消耗するのみ」…これが、私が得た教訓です。



過去の災害番組で得た情報が活躍

東日本大震災(平成23年3月)

相模原市 30代 男性 会社員



地震発生時、私は厚木市にいました。職業訓練中に、今まで経験したことのない揺れがビル内を襲いました。「これはただ事じゃない」と直感し、慌てて携帯ラジオをつけると、東北地方が大変なことになっているのがわかりました。

訓練は中断、帰宅となったわけですが、「電車が動いているわけがない」と思い、歩いて帰ることを決意しました。距離にして10キロくらいですが、私にはいくつかの「情報ツール」や「知識」があったので、意外と冷静に乗り切ることができました。

まずは携帯ラジオ。いつも常備していたので、最新情報に困ることはありませんでした。また、地域の細かい内容は、コミュニティFMにチューナーを合わせ、確認しました。そして帰るルートですが、以前に車で走ったことのある道だったので覚えていました。外出にはリュックサックを使っていたので両手が使えましたが、リュックの中には「まさか」に備えて電池式の充電器や電池、LEDの懐中電灯を忍ばせていました。

また、ウェットティッシュも役に立ったし、旅行の癖からか、お菓子も少し入れていたのでチョコレートがやけに美味しく感じました。そして帰宅の目安時間を多めに取り、コンビニや公園で休憩を挟みながら帰りました。結局4時間ほどで帰れました。

このような知識の中には、阪神淡路大震災の際の番組や、毎年放送される災害情報番組で教えられたことも多いんですよ。



私が帰宅難民となって、 気が付いたこと

東日本大震災(平成23年3月)

横浜市 50代 男性 会社経営



被災した時は仕事場に留まる

私は蒲田のビルの16階で地震に遭いました。夕方に品川で打ち合わせがあったので、歩いて品川に向かいましたが、途中で打ち合わせ中止のメールが。帰宅するか迷いましたが、宿泊できるほど現金を持っていなかったので、歩いて帰ることを決断しました。

途中、スーパーで水と食料と軍手を購入して、帰路に着きました。夜8時位に大森を出て、国道1号線を歩き続けましたが、駅から離れると何も情報が入ってきません。私は携帯ラジオで情報を得ていましたが、歩いている人は不安がってました。それに道路沿いにトイレがないことも気になりました。長蛇の列のコンビニを除けば、たまたま通りかかった公園内にトイレがあるくらい。特に女性は大変そうでした。

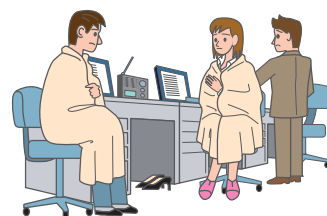
それからハイヒール、ブーツのまま歩いて、足をひきずって歩いている女性が意外と多いことにも気が付きました。普段

から歩きやすい靴を用意しておいたほうがいいですね。

そして歩道のない道が増えてくると、道のどちら側を歩いたらいいか判らない人が多いことも気になりました。また、会社ぐるみで歩いて帰っているグループをいくつか見ましたが、べちゃくちゃ喋りながら歩道一杯になって歩いている集団も。前からも人は歩いてきますし、後ろからも歩くペースの早い人もいます。非常に邪魔でした。

どうにかこうにか、私が自宅に着いたのは、深夜2時半位。

この経験を教訓に、私の経営する会社では「仕事場に歩きやすい靴を置いておく」「直接被災した場合には仕事場に留まる」…この2点を守るように指示を出しました。



液状化現象を津波と勘違い

東日本大震災(平成23年3月)

横浜市 40代 男性 会社員



震災の日、私は浦安のホテルで、宴会場の音響・照明をコーディネートする仕事をしていました。

地震の瞬間は、まさにパーティーの真っ最中。急いで会場に駆けつけると、再び余震が。「近くのテーブルの下に隠れてください」と大声を張り上げ、機材を押さえました。

「お客さんをどうするか、早くジャッジをして」とホテルにお願いしましたが、なかなかアナウンスがありません。結局「いったん外に出てください」と指示があり、お客さん共々外に避難しました。すでにワンセグで東北の津波の事を知り、「外は危険なのでは?」と詰め寄りましたが、判断が覆ることはありません。

あたりを見渡すと、街灯が4~5本倒れ、バス停も倒れています。また駐車場からは、噴水のように水が噴き出しているところがあり、それもどンドン水の量が増えている感じでした。後で液状化が原因とわかりましたが、この時は「これも津波の影響か」と思い、再びホテルへ逃げ込んでしまいました。





鹿児島から来た作業車のおかげで すぐに使えた主要道路

受けた恩を東日本の被災地へ

私は職場まで電車で通勤しとるんですが、レールの上に灰が溜まってしまったもんで帰りの電車が不通になってしまったんですよ。幸い、道路は鹿児島からの作業車がいち早く駆けつけてくれて使える状態でしたから、車で迎えに来てもらったりして無事に帰ることができました。

あの時は鹿児島からの作業車や、ボランティアの人たちの助けが大きかったですね。あの助けがなかったら、こら辺の主要な道路はしばらく使えなかったかも知れんですからね。

受けた恩っていうのは忘れられないもんで、東日本の震災の時はずちからも職員が3人、復興支援隊として自主的にボランティアに行ったんですよ。

今回の噴火で学んだことは、災害では常に最悪のことを想定しておかないといけないということ。今まで起きなかった

から大丈夫っちゃう考えでは、まさかの事態に行動が起こせんとですよ。



近所の人の声かけが一番!

消防団員は避難の呼びかけと地域の見回りで大忙し

新燃岳が噴火するのを見たのは昭和34年と今回の二度目なんですが、あの時は水蒸気爆発だったので噴煙ちゅうのはあがらなかったとです。なので、今回の噴火で火柱ちゅうのを見た時は、ガタガタと足が震えましたよ。

消防団の団長をしとるもんですから、噴火から1ヵ月間は家に帰る間もなく慌しく動いておりました。

避難区域の住民に避難を呼びかけるんですが、中には応じてくれない人も何人かいますね。避難勧告でなく、拘束力のある避難指示だったらすんなり動いてくれたんでしようけれども。高齢化の進んでおる地域ですから、行政が言っても聞かん人も多いんですわ。近所の人「危ねえから、逃ぐっど」が一番効果的でした。

その他に、警察と一緒に避難区域の見回りなどをしましたよ。悲しいかな、避難中に空き巣などを企てる不届き

者が現れるのも災害時の特徴ですからね。





店舗の提供をうけ、販売を続ける

洗っても落ちない葉もの野菜についての灰

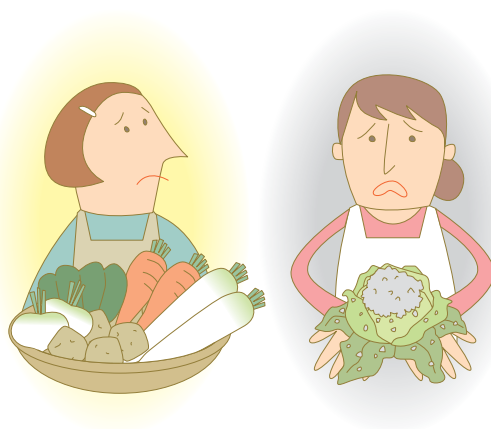
お店が避難区域に指定された時はどうしようかと思いました。野菜は生ものですから置いておくわけにもいきません。そうしたら、宮崎市内にあるお店が「うちの店舗を使って」と申し出てくれまして、その日の朝に職員みんなでそちらに商品を移動させ、そこで販売させてもらいました。ありがたくて涙が出る思いでした。

お店には毎日、30件くらい野菜の持ち込みがあるんですが、大根やサトイモなどの根もの以外の野菜は全て食べられない状態になってしまいました。

灰は粒子が細かいので、葉に刺さり、水でどんなに洗い流しても取り除くことができないんです。葉ものを専門に扱う農家さんたちは噴火によって収入がゼロになってしまったんです。可哀そうで、かける言葉も見つかりませんでした。

ようやく、全てが元通りになったのは9月に入ってからです。

それまでは店の前の道路に灰が舞い、県外からのお客さんもほとんどいらっしゃいませんでした。本当に長かったです。

とつぜん襲った地鳴りや
窓を揺らす空振^{*1}

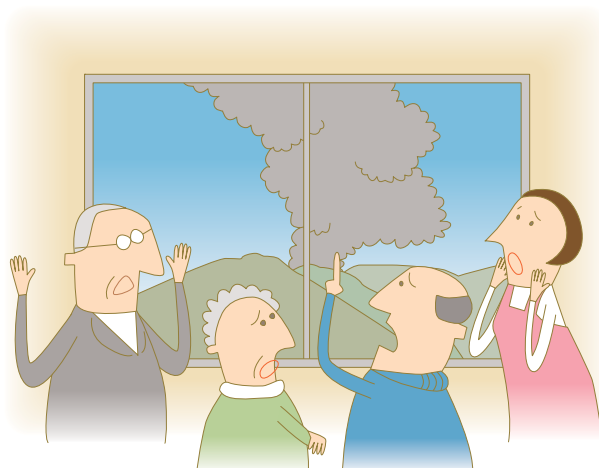
「安心して」と利用者へ声かけ

午後3時くらいだったでしょうか。利用者さんが「新燃岳が噴火した」と教えてくれまして。外を見るとモクモクとした噴煙がこちらにどんどん迫ってくるのが見えたんです。

その日の深夜、地鳴りと共に窓ガラスがガタガタと揺れ始め、30名以上の方が起きてこられました。地鳴りや空振^{*1}も恐ろしいものでしたが、火口付近で立ち上がる火柱や噴雷はこの世の光景とは思えない異様なものでした。

利用者さんの中には、帽子やバッグを身につけ、不安な面持ちで一夜を過ごされた方もいました。「この建物は鉄筋やっで、頑丈よ。安心しやいね」と、職員みんなで声かけをして安心してもらいました。

激しい空振^{*1}はその日だけでしたが、しばらくの間は園内のガラス全てに保護フィルム^{*2}が貼られました。



*1 空振とは、爆発や噴火などで起こる大気の振動のこと。

*2 ガラス飛散防止フィルムのこと。



窓を締め切った生活

灰とともにウイルスの恐怖も

噴火からしばらくは、庭にも建物にも灰が積もった状態で、利用者さんはとても外出できる状態ではありませんでした。灰を集めるのに職員だけでは人手が不足、ボランティアの方にも手伝ってもらってようやく完了しました。集めた灰を土のう袋に詰めるのですが、全部で400以上はあったと思います。その間は園内の窓も締め切っていましたので、換気も出来ない状態でしたね。

同じ頃、町内の避難所ではインフルエンザが発生してしまい、そこに避難していたうちの職員の家族も発症してしまっただけです。もしもの時を考え、その職員にはしばらくの間休んでもらいました。徹底した管理の甲斐あって、園では体調を崩される利用者さんは出ませんでした。



声かけや水配りで安否を確認

非常時に心強い、ご近所さんの存在

公民館長をしていますので、1月2日から公民館にきましたが、除雪依頼の電話や停電、断水の電話がジャンジャンかかってきました。雪が深くに行けないような場所でも、電話で状況がわかったり、安否確認ができればいいのですが、電話が不通な所や携帯電話を持っていない方とは連絡がとれず、なかなか全体を把握することができませんでした。

非常時には、隣近所の人同士で安否確認をすることが大切です。雪かきに出てきていないお宅には、声かけなどをしていました。また、断水している地域には背負子*で水を運びましたが、水を配りながら安否確認をしました。孤立感が深まる中、自分たちのことを認識してくれていることが、大きな安堵感に繋がったのではないのでしょうか。

私の家の隣に透析を受けている人がいまして、うちの息子が雪のデコボコ道を車で病院まで送っていったということが

ありました。今回の雪害では、ご近所さんを心強く感じた人が多かったのではないのでしょうか。

*荷物を背中に背負って運搬するための竹などで編んだ籠のこと。



電話が通じず、 頼りの消火栓も雪の中

山陰地方の大雪
(平成22年12月～23年1月)

松江市 60代 男性 自治会顧問



火事の対応に手間取る

平成23年1月2日の午後2時半頃、「火事だ!」と自治会長の私の所へ人が飛んできました。しかし、停電で外部とは連絡が取れず、集落の有線放送も使えない。携帯電話もほとんど圏外でつながらないので、人員を招集するのが大変でした。

家はすでに燃え上がっていました。中に人がいたのですが、壁の方から燃えていったので、火が大きくなるまで気づかなかったようです。オール電化住宅で暖房が使えず、豆炭こたつを使用していましたが、その炭が火元とのことでした。

消防車来るまで、消火器や消火栓で対処していました。しかし、消火栓はみな道路の下にあり、雪が積もっている場所もわかりませんでした。消防団が雪かきをしましたが、屋根から落ちてきた雪でまた埋まってしまう状態で…。年寄りだけの家は、雪かきをしていないこともあり、仕方ないですね。遠くにある消火栓からホースをつないで消火活動を

しました。その日が無風状態だったことが、不幸中の幸いです。



防災豆知識 その2

ふだんからの地域のつながりが大切です

私たちはお年寄りや
障害のある方など※を
支援するために
何ができるのでしょうか?

阪神・淡路大震災で、家の下敷きになった人々の多くを助け出したのは、家族や近所の人たちでした。大規模災害時の救助や避難などには、ふだんの近所つきあいが力を発揮します。また、お年寄りや障害のある方など災害に弱い方々の立場にたった心配りが大切になります。

※このような方を「災害時要援護者」ということもあります。



ふだんからお互いに声をかけあうと



いざというとき、助けあえる



脱輪した乗用車は、 普通タイヤを履いた県外ナンバー

ナビ頼りの脇道も危険

この時期、普通タイヤで走るのだけはやめてほしいですね。今回に限らず、脱輪などのレッカー移動に行くと、普通タイヤの人が本当に多い。そのほとんどが県外ナンバーの車です。

普通タイヤに装着できる簡単なチェーンがありますが、それで高速道路を70～80キロメートルで走ると、片方が外れてバランスを崩し、滑りやすくなります。スピードが速いと、とても危険です。金属のチェーンでも、50～60キロメートルが限界。けっこう横滑りもしますね。また雪がないところを走ると、切れやすくなります。雪道に慣れていない方には、そういった知識も不足しています。

地元の間人は、通っても大丈夫な脇道を知っていますが、県外の人がナビに従い、除雪されていない脇道に入り、ハマってしまうというケースもよくありましたね。

それと目についたのが、四輪駆動車の脱輪です。車の性能を

過信してしまっているからか、無理をするんでしょうね。四駆は4本のタイヤが全部いっしょに滑りだすと、もう止められませんが。



電気を届けられないなら、 それに代わる物資を



支援班がストーブや灯油を届ける

平成23年1月1日の早朝に停電した特別養護老人ホームから、「入所者が大部屋に集まり、湯たんぽで暖をとっている。高齢の方々の体調が心配なので、何とかしてほしい」という連絡を受けました。そこで、私どもの支援班がストーブや灯油を用意し、運ぶことにしました。これらの物資は、ホームセンターでも品切れでしたが、なんとか調達することができました。

しかし、物資を運ぶのが、また大変で。施設の近くまでは車で行けたのですが、最後の約200メートルの上り坂は、社員が荷物を担いで上りました。

停電の復旧まで丸1日かかったので、施設のみなさんから喜ばれ、後からお礼の電話や手紙をいただきました。

お客さまの身になれば、いつ復旧するかわからない状態は不安です。特に、高齢者がいる施設ではなおさらです。こうした

対応をすべてのケースにできるわけではありませんが、精いっぱいのができてよかったと思います。



一日前プロジェクト みんなでやってみよう!

簡単な手順を紹介します

まず、過去の自然災害(地震、水害)の中から対象を選ぶ

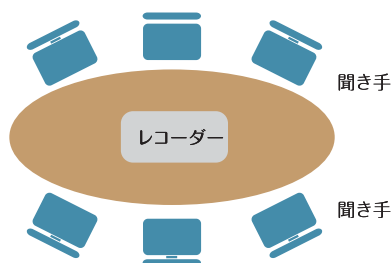
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する

※所要時間は2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時は思い出しながら、体験したり感じたことを話し合ってもらおう

※話し手は、2~4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を物語にする

※物語は、300~500字程度で、できるだけ切り口を残して編集 ※物語の情景をあらわすイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省

「一日前プロジェクト」とは、地震や水害などの自然災害で被災した方や災害対応の経験をもつみなさまにお集りいただいて、

- 被災前の行動
- 体験を通じて上手くいったと思うこと、失敗したと思うこと
- もう一度災害が発生したならば、次はどのように行動したい
- 日頃から何を準備しておけばよかった

といったお話を聞かせていただき、そこから導き出される教訓や身につまされるお話を小さなエピソードにとりまとめる活動です。

こうして取りまとめたエピソードを広く活用・普及させることで、地域のコミュニティや国民一人ひとりに、防災・減災への関心や意識を高めていただくことを目的としています。

ここで紹介する物語は、ほんの一部です。一日前プロジェクトから生まれた約650の物語は、内閣府の「被害者を軽減する国民運動のページ」<http://www.bousai.go.jp/km/>に掲載されています。ぜひ、アクセスしてみてください！きっと、あなたの心を動かす物語が見つかるはずです。

■一日前プロジェクトの物語・イラストは、非営利の目的であれば、広報誌やパンフレットなどご自由にお使いいただけます。

「災害被害を軽減する国民運動のページ」(<http://www.bousai.go.jp/km/>)からダウンロードしてください。

第27回 防災ポスターコンクール入賞作品

防災担当大臣賞



幼児・小学1～4年生の部

鹿児島県
出水市立江内小学校2年
永畑 凜茄(ながはた りんか)さん



小学5・6年生の部

長野県
山ノ内町立東小学校6年
福澤 有紗(ふくざわ ありさ)さん



中学生・高校生の部

愛知県
だれでもアーティストクラブ 中学1年
横田 さくら(よこた さくら)さん



一般の部

岐阜県
県立岐阜総合学園高等学校3年
馬淵 はづき(まぶち はづき)さん

防災推進協議会会長賞



幼児・小学1～4年生の部

徳島県
アトリエ遠渡「高木教室」小学3年
三浦 友里江(みうら ゆりえ)さん



小学5・6年生の部

徳島県
アトリエ遠渡「高木教室」小学6年
吉本 美嶺(よしもと みれい)さん



中学生・高校生の部

栃木県
幸福の科学学園中学校2年
北条 歩(ほうじょう あゆむ)さん



一般の部

徳島県
県立徳島科学技術高等学校3年
松尾 みづき(まつお みづき)さん

平成23年度防災ポスターコンクール入賞作品よりその他の作品は次のホームページからご覧いただけます。

<http://www.bousai.go.jp/>



内閣府(防災担当)

〒100-8969 東京都千代田区霞が関1-2-2 中央合同庁舎第5号館3階
Tel:03-5253-2111 web:<http://www.bousai.go.jp/km/>